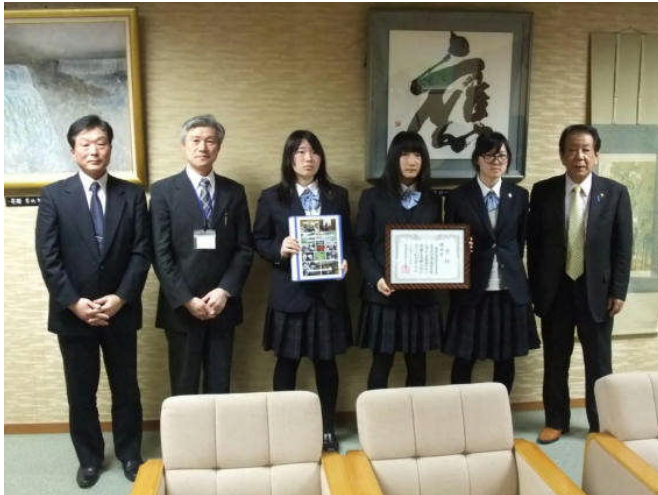


1年生の小田恵さん、池田瑞花さん、尾藤恋菜さんが、
佐渡市長に1年間の活動報告を行いました。

平成 26 年 2 月 25 日（火）佐渡市役所へ訪問

上記 3 名の生徒は本年度 GIAHS（世界農業遺産）^{ジアス}に関わる調査・発表や佐渡の方々への取材活動等を行ってきました。このたび、甲斐市長にその活動内容を報告し、次年度の計画について抱負を語りました。



甲斐市長と一緒に記念撮影（佐渡市役所）



活動報告の様子（上・下）

3 人が行った調査・活動の内容

- ★ 能登の里山里海人「聞き書き」研修に参加 平成 25 年 8 月 5 日（月）～ 7 日（水）
場所 石川県能登町 春蘭の里



取材の準備風景



書き起こし（小見出しをつけ、文章にします）



2011 年（平成 23 年）、佐渡市と能登が GIAHS に認定されました。

能登の GIAHS は「能登の里山・里海」です。能登の人たちが山と海にどう関わって来たのかについて高校生が「聞き書き」という手法を使ってインタビューし、冊子にするという内容でした。

能登の高校生は 12 校から 28 名参加しました。そこに私たち 3 人を加えて頂き、講習会がスタートしました。

最終日、私達も農家民宿をされている方に聞き書きインタビューをさせて頂きました。2 時間の質問時間を予定して準備をしてきましたが実際には 30 分程度で終わってしまい、逆にアドバイスしていただく始末。むずかしさを実感しました。



★ 相田忠明さん（佐渡市）聞き書きインタビュー 平成25年8月26日（月）



能登の研修の成果を生かして佐渡において聞き書きインタビューを行いました。今度は2時間用のインタビュー内容を真剣に考え、用意して臨みました。



相田さんは、加茂湖のカキ殻を使い、有機質の質にこだわった稲作りを推進しておられます。トキを守ることが人を守ることになぜ繋がるのか等、貴重なお話を聞くことができました。

★ 能登・佐渡「聞き書き」研修交流会 平成25年10月5日（土）

場所 柳田植物公園「合鹿庵^{ごうろくあん}」(石川県鳳珠郡能登町)



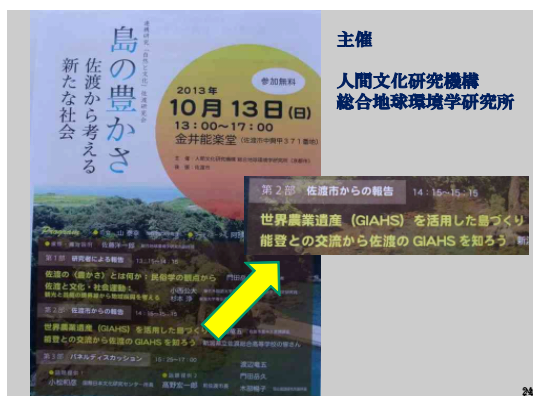
能登の伝統文化（あえのこと＝“田の神様”に一年の収穫の感謝を捧げる農耕儀礼）研修会に参加しました。私達は、佐渡の GIAHS についての発表と、私達に何ができるかについて15分間のプレゼンテーションを行いました。講演に来られていた大学の先生から「よく調べたね」というお褒めのことばをいただきました。能登の生徒達に少しだけ追いついたような気持ちになりました。

★ 「自然と文化」佐渡研究会で発表 平成25年10月13日（日）

主催 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所（文部科学省の研究機関）

協賛 佐渡市

発表題 「能登との交流から佐渡の GIAHS を知ろう」



能登での発表の1週間後、佐渡金井の能楽堂において、能登で研修した内容も加えた30分間のプレゼンテーションを行いました。高校生から見た GIAHS の内容のほかにも、トキの歴史や絶滅した理由、佐渡が最後の生息地だった理由、「トキと共生するにはどうしたらよいのだろうか」などについて発表しました。この時の発表映像を DVD に編集し直し、佐渡の高校4校に配布しました。

★ プロジェクト発表県大会出場 平成26年1月22日(水)

主 催 新潟県学校農業クラブ連盟

発表題 「佐渡の農業文化を守るために」～佐渡総合高等学校 GIAHS プロジェクト～



本年度、私達は佐渡市農林水産課 生物多様性推進室と連携し、「高校生から見た GIAHS」というテーマの活動に参加し、世界農業遺産についての調査や佐渡島民への広報活動を行いました。その一環として、上記の研修や文部科学省の研究機関主催の研究会で調査内容を発表しました。その内容や活動経過をまとめ、農業クラブ連盟主催のプロジェクト発表県大会で発表し、優秀賞を受賞しました。

ジ ア ス
GIAHS (世界農業遺産) ってなあに・・・



正式には Globally (世界的に) Important (重要な) Agricultural (農業の) Heritage (遺産) Systems (システム) といい、頭文字を取って「GIAHS」と名付けられました。国際連合食糧農業機関 (FAO) が 2002 年に初めて創設しました。「伝統的な農業や文化」を守ること、「土地景観の保全と持続的な利用」を図ることを目的としております。2013 年までに 11 カ国・25 サイトが認定を受けています。佐渡の場合は「トキと共生する佐渡の里山」という、これからの農業の形を問うものです。

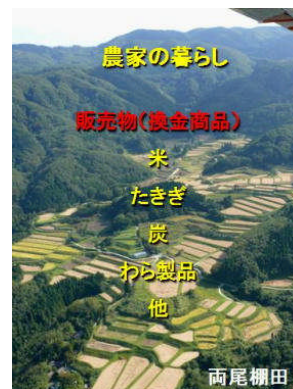
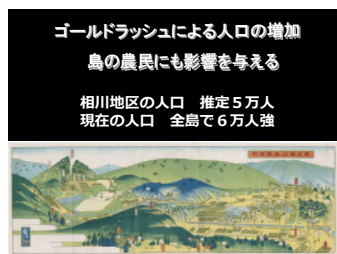


1 佐渡にはなぜ能舞台がたくさんあるのでしょうか。

こんな小さな島に「能」に代表される芸能や、農業にかかわる神事が数多く残されています。中でも、能舞台の数は全国の 3 分の 1 を占める 33 舞台も残っています。なぜなのでしょう。



そのルーツは 17 世紀初頭に発見された金銀山にありました。江戸幕府は 300 年間という長きにわたって金銀山を掘り続け、国の財政を支えてきました。このゴールドラッシュにより全国各地から人々が押し寄せ、島の人口は爆発的に増加しました。このことは当然、300 年間、島に住む農民たちの生活に大きく影響を及ぼすことになりました。



食糧確保のために次々と水田が作られ、海沿いや山奥にも棚田を作りました。食料となる米はもちろんのこと、それ以外の農産物やたきぎ、炭やわら・竹

細工製品など、お金の換えられる商品の需要も多かったことが伺えます。このことから、当時の農家は小規模のわりには極めて豊かな生活を送ることができたのではないのでしょうか。そして、佐渡には当時の日本でも類のないくらいの「貨幣社会」、「消費社会」が存在したと思われまます。



金山がもたらす「豊かな農業生活」が農村を支え、豊かになった農民は「ゆとり」を手に入れました。そして様々な文化や芸能を取り入れていくこととなりました。「能」は、農民が神社への奉納神事として楽しみ、鬼太鼓などの伝統芸能は集落を単位とした豊作を願う神事として継承され、日本のどこにもない独特な農村文化ができあがったと考えられています。



2 佐渡のトキはなぜ、最後まで生息できたのでしょうか。

その後、金山はしだいに衰退し、農業外収入は減少することとなります。しかし、島であることもあり、他にこれといった産業のない佐渡では農地は大切に残されました。



高度経済成長を経験し、大規模農業の時代になっても山間の農地は規模が小さいため耕地整理をすることができずに今に至っています。効率的な土地改良が進まなかったことが、かえって今では土側溝やため池などを残すこととなり、多くの生き物が生息できる環境をそのまま残すこととなりました。また、農薬の使用も控えたことで、豊かな生物多様性が守られ、トキが日本において最後まで生息できる環境が維持されてきたのです。

3 トキと共生するにはどうしたらよいのでしょうか。

放鳥されたトキと共に暮らして行くには課題がいくつもあります。トキが生き続けられる自然条件を整えることです。過去に生き続けていた本来の生態系を復元することです。そして、トキが安心して暮らせる環境こそが私たち人間にとっても安全で安心な環境となるのではないのでしょうか。共生することが私たちにも本当の豊かさをもたらしてくれるのではないのでしょうか。



具体的には、トキを守るために、餌となるドジョウやタニシ、カエルを守らなくてはなりません。そのドジョウを守るためには餌となるユスリカの幼虫やソウ類や植物類を守り、動物性・植物性プランクトンを守るといのように、トキを頂点とする生態系全てを守らなくてはなりません。いわゆる生物多様性を保



全・再生する必要があるのです。

4 環境に配慮した農業を紹介しましょう。

佐渡市では、これらの生物が生きられるように農薬の成分を慣行栽培の半分に減らした栽培方法や、多くの微生物が育つようにと化学肥料成分を半分に減らし、有機質で補う栽培方法が行われています。

(1) 江（深み）の設置

田んぼが乾いたときに、生き物が避難できる場所を確保します。



(2) 魚道の設置

水田を魚の産卵場所や生育場所にするために、小川と水田を人工の魚道で繋いでいます。



(3) ふゆみずたんぼ（冬期湛水）

冬期間の生き物の越冬場所や、早春のカエルなどの産卵場所として、冬の間も水を張っておきます。



(4) ビオトープの設置

休耕田を利用し、1年をとおして水をため、生き物の生育場所を確保しています。



このように「生き物を育む農法」で作られたお米は特別なお米としてブランド化され、付加価値を付けて販売できることから、生産者にとっても農業収入が増え、棚田などの比較的小規模な水田の維持が可能になると考えられています。

5 トキと共生する佐渡の里山

金銀山がもたらす経済効果が農村生活にゆとりを与え、先人たちは様々な文化を取り入れ、心豊かに暮らしていたことでしょう。また、各農村集落に伝わる鬼太鼓などの伝統芸能や神事は集落の結束を高め、共同作業等により農地や農業を守ってきたのです。その農地は現在でも豊富な生物多様性を保ち、私たちに安全で安心な環境や食糧を育ててくれます。そのような自然と大地、文化が一体となって織りなす佐渡だからこそ、トキと共生できる唯一の住み家といえるのではないのでしょうか。



資料・写真提供：佐渡市農林水産課生物多様性推進室

写真提供：山田裕之氏 環境省